

ROCK FIELD

R E P O R T

第 4 7 期 の ご 報 告

2018年5月1日 ~ 2019年4月30日

The Mirai Salad Company

ROCK FIELD

証券コード：2910

株主の皆様へ

代表取締役社長 古塚 孝志



当社が創業した1972年には約3,000億円だった中食・惣菜の市場規模は、2017年に初めて10兆円を超え、本年5月に日本惣菜協会から発表された「2019年版 惣菜白書」によりますと、2018年には前年比102%と9年連続で拡大を続けており、今や中食・惣菜が社会のライフラインを支える存在に成長してきたと感じます。しかしながら、惣菜専門店の増加に加え、コンビニエンスストアや食品スーパーなどの惣菜の販売強化による中食・惣菜市場の拡大は、更なる競争激化につながり、当社を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しております。

第47期は、地震や豪雨、台風などの相次ぐ自然災害に起因した一時的な売上の減少に加え、アパレルなどインターネット通販の急速な普及により百貨店など商業施設の来店客数が減少し、リアルな店舗での対面販売を主としている当社にとっては大変な苦戦を強いられました。また、原材料価格の高騰や人手不足・人材確保難を背景とした人件費や物流費の上昇などにより、売上・営業利益ともに前期を下回る厳しい結果となりました。

こうした厳しい経営環境の中、現在は百貨店や駅ビルなどの店舗において商品の価格帯幅を拡げ、お買い求めやすく選ぶ楽しさのある商品提案を行い、また平日と週末で商品の品揃えを変えることで、お客様のご来店頻度を高めるための取り組みを行っております。前期から力を入れている野菜の加熱調理については、生野菜とは異なる食感や加熱によって引き出される甘みや旨みといった加熱野菜ならではの魅力をお伝えるサラダや料理の商品開発を行っております。生野菜や調理済みの食材をキット化し盛り付けなどの体験を楽しんでいただくキットサラダは、量り売りのサラダよりも1~2日長くお召上がりいただけるため、店頭だけでなくインターネット販売も拡大させていきたいと考えております。2020年5月末に竣工を予定している静岡ファクトリー第4棟では、更なる機械化・自動化による少人化や、新たな市場への展開を見据えた生産体制の再構築

を図るとともに、2018年に創設した「野菜研究所」を活用し、素材の力を最大限に引き出した競争力のある商品の提供を行っていきたくと考えております。

また、既存の店舗とは異なる新たな販路として、当社の提案する健康、安心・安全で高品質な商品で豊かな食を楽しむといった想いに共感いただけるお取引先様に対する冷蔵・冷凍商品の卸販売や、RF1オンラインショップの運営も行っております。これらの取り組みを強化していくために、今後は冷凍料理の開発にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。近年、受注件数が伸びているケータリング事業では、サラダや野菜タルト、シャルキュトリーなどを組み合わせ、華やかなパーティなどに映えるような味にも見た目にもこだわった商品提案にご好評をいただいております。今後の可能性に期待を感じる取り組みになりつつあります。

都心のオフィスビルの店舗では、1食で野菜をしっかり摂れるお弁当の販売を強化しランチ需要を取り込むとともに、ランチタイムに集中するレジの混雑を緩和しお客様の利便性向上を図るため、新たな取り組みとしてモバイルオーダーシステムを導入し、ご来店前に商品の注文・決済ができるようにするなど、量り売り販売中心の既存店舗とは売り方が異なるITを活用した店舗運営にもチャレンジしています。

今後は10月に予定される消費税率引き上げにより個人消費の冷え込みが予想されるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続くものと思われまます。このような社会や市場環境の変化に対し、当社は「The Mirai Salad Company」として、より一層の生産性向上や次の時代に対応するためのビジネスモデルの変革を推し進めるとともに、これまで培ってきた経営資源を活かした価値ある惣菜の提案を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧、ご協力をお願い申し上げます。

2019年7月

財務ハイライト

POINT
01

「The Mirai Salad Company」として、「サラダ」を通してそうざいの可能性を追求し、「食と健康」という新たな価値創造に取り組んでまいりました。また、多様化する顧客ニーズに対応するため、付加価値の高い新商品の積極的な導入や、既存商品のブラッシュアップを重ねることで客単価アップに取り組みました。

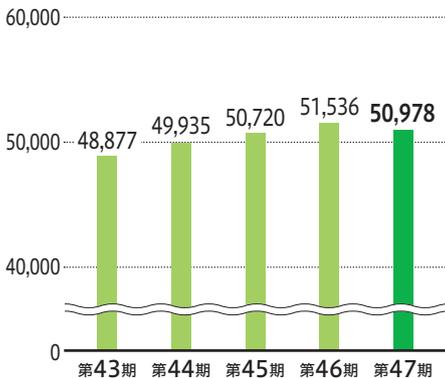
POINT
02

中食市場の拡大に伴う、コンビニエンスストアや食品スーパーなどの惣菜販売強化による競争激化、アパレルなどインターネット通販の急速な普及による百貨店など商業施設の来店客数減少、原材料価格の高騰や人手不足・人材確保難を背景とした人件費や物流費の上昇などにより厳しい経営環境が続きました。

売上高

50,978 百万円
(前期比 **1.1%** 減)

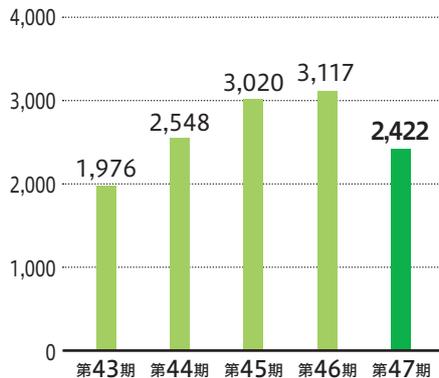
(単位:百万円)



営業利益

2,422 百万円
(前期比 **22.3%** 減)

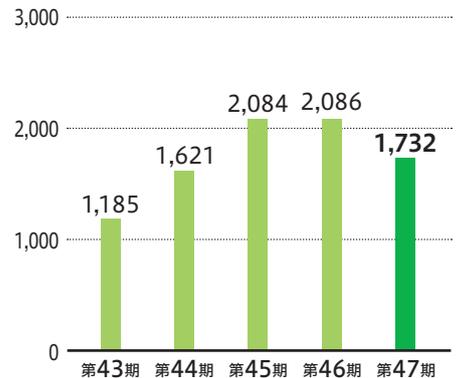
(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

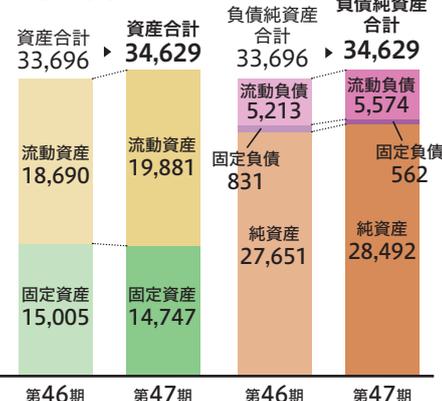
1,732 百万円
(前期比 **17.0%** 減)

(単位:百万円)



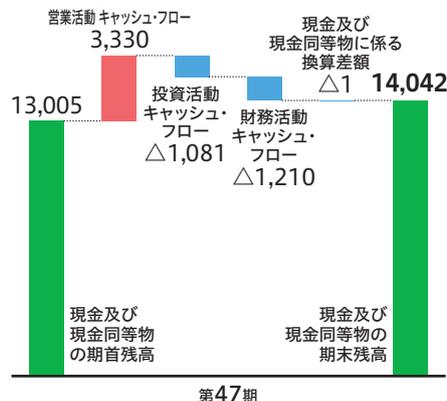
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



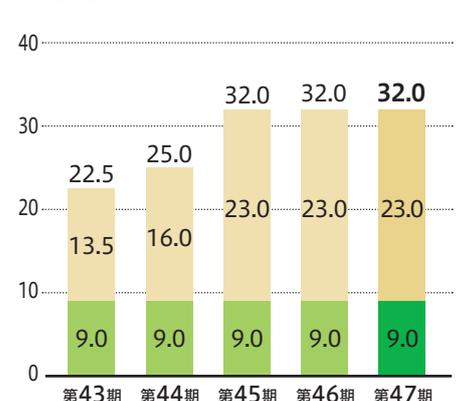
連結キャッシュ・フローの増減要因

(単位:百万円)



1株当たり配当

(単位:円)



〈第47期末〉自己資本比率 82.3%
1株当たり純資産額 1,072.52円

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し表示方法の変更を行いました。この変更に伴い、第46期末の流動資産及び固定資産の額を遡及修正し記載しております。

※当社は、2016年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第44期以前の配当額については、当該株式分割を考慮した調整値を記載しております。



150
店舗

アール・エフ・ワン

売上高 **32,836**百万円
(前期比**3.1%**減) ▼



帆立と炙り筍のサラダ 海苔塩バターソース

「サラダから、健康をはじめよう。Salad First」の考え方のもと、サラダを中心とした食生活・習慣の提案を行いました。その一環として、「緑の30品目サラダ」「緑黄色野菜のサラダ」といった定番商品をブラッシュアップするとともに、ご自宅で温めてお召し上がりいただく温サラダや加熱した野菜を使ったサラダの提案を行いました。



61
店舗

Green gourmet

グリーン・グルメ

売上高 **8,683**百万円
(前期比**6.2%**増) ▲



蒸し鶏とパクチーのやみつきサラダ

セレクトショップとしてRF1のサラダを中心とした品揃えに、いとはん、融合のサラダ・料理の販売強化を行いました。また、第43期より進めております業態変更の影響により、売上高370百万円がRF1からグリーン・グルメの売上高となりました。



32
店舗

いとはん
日本のさらだ いとはん

売上高 **3,535**百万円
(前期比**0.3%**減) ▼



京都産筍使用 焼き筍の和さらだ

「カラダよろこぶ あわせ買い」をテーマに、季節ごとに必要な栄養素や日本人に不足しがちな栄養素が摂取できる商品や、季節感のある素材を使用した新商品のサラダの提案を行いました。

神戸コロック

37
店舗

神戸コロック

売上高 **2,882**百万円
(前期比**0.4%**減) ▼



カルボナーラ風リゾットコロック

「世の中にないコロック屋を目指して」をテーマに、コロックの付加価値を向上させる商品の展開と、コロックを中心とした豊かな食卓の提案を行いました。併せて、「大航海コロックシリーズ」として、世界各国で見つけた食材で作る新しいコロックシリーズの販売を実施しました。



26
店舗

ベジテリア

売上高 **1,447**百万円
(前期比**3.6%**減) ▼



鳴門金時&和菓のポタージュ

「KENKOサポート」をテーマに、季節ごとに不足しがちな野菜の自然な栄養を毎日手軽に摂れるジュースの提案を行いました。併せて、ベジテリア15周年記念として、こだわりスープの販売を実施しました。



10
店舗

融合
アジアン・サラダ 融合

売上高 **1,112**百万円
(前期比**7.1%**減) ▼

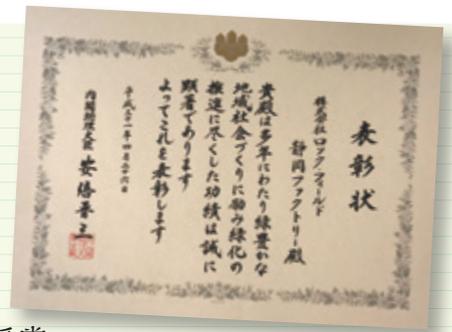


真っ赤なスパイスの柔らかか豚

アジアンサラダの更なる進化を目的に、ココロとカラダが癒される「癒しサラダ」や、ハーブやスパイスを効かせた商品の展開をするとともに、素材の良さを引き出す調理技術を駆使した「おかずになるサラダ」の提案を行いました。

自然と調和する 静岡ファクトリー

～平成31年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰 受賞～



2019年4月26日、東京都千代田区の憲政記念館にて第13回みどりの式典が開催されました。この中で、当社の静岡ファクトリーは、緑化活動の推進・緑化思想の普及啓発に顕著な功績のあった団体などを表彰する「平成31年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞し、当社社長の岩田と社長の古塚が式典に出席しました。式典には、天皇・皇后両陛下（現上皇・上皇后両陛下）のご臨席を賜り、式典後にはレセプションがあり、両陛下と受賞者の交流の場が設けられました。

1991年5月に竣工した静岡ファクトリーは、「地球環境を守り豊かな自然を次代に伝えます」の環境宣言に基づき、従業員にも地域の方々にも親しまれる自然と調和した工場を目指してきました。竣工当時から取り組んでいる緑化活動では、周辺の山々と調和する緑化を行うために実際に里山へ調査に赴き、地元で自生する木々を選定し、植樹しています。また、工場敷地全体を「静岡ファクトリーパーク」と名付け、近隣の保育所や小中学生などへの工場見学会を継続的に実施し、次世代を担う若者に向けて自然環境を守ることの大切さを考えるきっかけ作りをしています。

受賞の評価ポイント

風力発電やビオトープの設置

「風と水と緑の循環型ファクトリーパーク」をコンセプトに風力発電を設置し、風車から得られる電気エネルギーを利用した排水処理施設で工場排水を浄化し、自然の浄化作用を持つビオトープを通すことで、クリーンな水を近隣の河川に放流しています。ビオトープには多くの水棲動物が生息し、水辺の植物が生い茂り、多くの鳥たちが訪れる環境となっています。



ビオトープ

風力発電

次郎柿の植栽

1991年の静岡ファクトリー第1棟竣工後に、会社と従業員の成長のシンボルとして、当時の従業員数と同じ240本の次郎柿の苗木を植えて大切に育てており、毎年お取引先や従業員にお配りしています。また最近では、専門的な知識を持った近隣の生産者の方から指導を仰ぐことによって、以前よりも甘く大きな柿を収穫することができるようになりました。



次郎柿

天然芝による屋上緑化

工場の一部の建物は天然芝による屋上緑化を行っており、夏季の室内温度の上昇を和らげるとともに、豊かな緑地景観を造り上げています。



屋上緑化

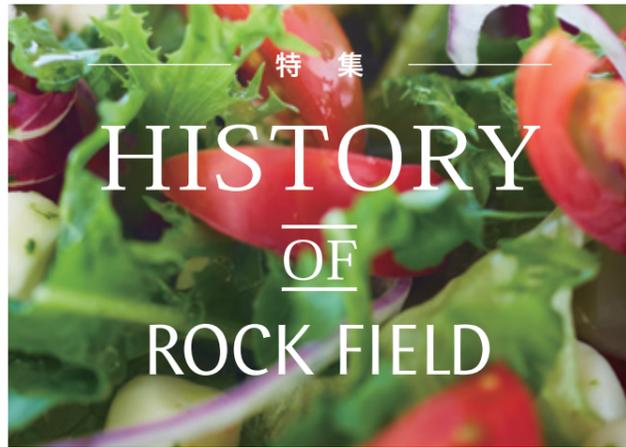
地域との関わり

2001年に開設した風車の丘保育室では、子どもたちが緑豊かな環境でお散歩を楽しみながら、自然との関わり方を学んでいます。また、地元の農家の方と長年交流があり、毎年子どもたちが作った案山子を農家の方の田んぼに設置することで鳥などの害獣を追い払うお手伝いをしています。そして、秋の収穫期には農家の方からお礼としてお米を届けていただいています。子どもたち自身が、そのお米をかまどで炊いておにぎりを作って食べるという関わりを通じて、食への興味を育む食育活動を行っています。



案山子

近年の緑化活動では、桜やヤマモモ、ヤマモミジなどを植樹し、従業員や地域の方々に季節の移ろいを感じていただけるようにしています。2020年5月には静岡ファクトリー第4棟の竣工を予定しておりますが、竣工当時から環境を大切にする想いを継承し、緑化活動に積極的に取り組み、地域との共生を大切にしていまいます。



特集

HISTORY OF ROCK FIELD

多彩な食の提案

ハウスブランドである「RF1」が着実に店舗数を増加させていく中、食に対するニーズの多様化に合わせて、現会長の岩田は洋惣菜のRF1とは異なる食の提案にチャレンジすることにしました。2001年に、アジア各国の料理と西洋の料理を融合させたスタイリッシュでヘルシーな新しいそうざいを提供するブランド「融合」を出店しました。続く2003年には、ジューススタンド「ベジテリア」を出店し、「きれいなカラダ、飲む野菜。」をコンセプトに、日常の食事では不足しがちな野菜や果物を手軽に摂れる提案を始めました。2005年には、食事を通して二十四節気など暦に合わせて季節の移り変わりを楽しむ日本伝統の食文化を大切にしたい新しい和そうざいを提供するブランド「いとはん」を出店しました。また、2010年からは、RF1・神戸コロッケ・いとはん・融合のセレクトショップである「グリーン・グルメ」ブランドを出店し、多彩な食を楽しんでいただく商品提案を行っています。

「健康、安心・安全、鮮度」などの共通の価値観のもと、素材・製法にこだわった豊かな食の提案を行ったことが、一層の成長につながりました。



融合



ベジテリア



いとはん



グリーン・グルメ

〈挑戦と変化の歴史〉

日々の食卓を豊かに彩るそうざいを目指して

2001年以降の日本は、女性の社会進出や単身世帯の増加などにより、社会が大きく変化してきました。惣菜の市場規模は年々拡大を続け、コンビニエンスストアや食品スーパーなどの惣菜の販売が強化され、競争が激化する中、ロック・フィールドは新たな挑戦を始めました。今回は最終回として、ロック・フィールドの未来創造期についてご紹介いたします。



海外への進出

百貨店、駅・駅ビルなどへ様々なブランドで出店していた頃、長年お取引のある百貨店の上海進出時に、当社に出店依頼をいただきました。中国では生野菜を食べる習慣がなく、また持ち帰り惣菜文化が根付いていなかったものの、安心・安全で新鮮な野菜を使ったそうざいで豊かなライフスタイルを提供したいという想いのもと、2012年8月に岩田（上海）餐飲管理有限公司を設立し、同年12月に「RF1」を上海に初出店しました。日本で展開してきた商品に加えて、現地の食材を使用したオリジナル商品の開発も行っており、購入したものをその場で食べることができるイートインスペースを併設しています。

2014年1月には、世界中の高級食品を豊富に品揃えする香港の日系スーパー「Citysuper」に「RF1」を出店しました。香港では当社スタッフをCitysuperに派遣し、店舗の運営管理や商品の製造加工のノウハウを提供するコンサルティング事業を行っており、海外市場での新たな可能性の模索を続けています。

新たな販売チャネルへの挑戦

当社は創業以来、百貨店や駅・駅ビルなどに出店しお客様との対話を通じて商品を販売してきましたが、インターネット通販の普及を受けて、お客様との新しい出会いの場として2017年9月に「RF1オンラインショップ」を開設しました。食卓を囲む豊かな時間を提供するため、手間ひまをかけた煮込み料理などの冷凍商品や、店頭では販売していない月替わりの限定商品、新鮮な素材をキット化したパーツをご自宅で盛り付ける「コト」を楽しんでいただく「作るを楽しむキットサラダ」などを取り揃えています。ご自宅でお召し上がりいただくだけでなく、親しい方へのギフトとしてもご利用いただくなど、少しずつ認知度が高まっています。



ケータリング事業では、プロサッカークラブ『ヴィッセル神戸』の本拠地スタジアム内に設けられたスポンサー企業などの交流エリアのお客様に試合観戦とともに楽しんでいただく食事を提供するなど、徐々に依頼が増えてきています。また、卸事業では、健康、安心・安全で豊かな食を大切にされている企業のオフィスやテーマパークなどに、新鮮なサラダやお弁当などの商品の提供も行っております。

これらの新たな販売チャネルへの取り組みは、これからのロック・フィールドを支える柱の一つとして成長しつつあります。



『ヴィッセル神戸』ケータリング

ロック・フィールドが創業してから、今年で48年目を迎えました。惣菜は家で作ることが一般的だった時代に、社会の変化を見越して歩み始めた当社の事業は、「中食」という新たな市場の創造に貢献してきました。インターネットを中心とした技術革新が進み、社会環境や人々のライフスタイルが変化していく中、当社にとって新たな価値提案や販売チャネルの拡大がますます重要になってきます。当社は、これからも豊かなライフスタイルの創造に向けた新しい芽を大切に育て、果敢に“挑戦と変化”を続けてまいります。

〔未来創造期〕

- 2001年 「融合」出店
静岡ファクトリーに「風車の丘保育室」を開設
- 2003年 「ベジテリア」出店
玉川SPSファクトリー竣工
- 2004年 神戸ヘッドオフィス・神戸ファクトリー竣工
- 2005年 「いとはん」出店
- 2006年 神戸ヘッドオフィス・神戸ファクトリーに「元気の木保育室」を開設
- 2009年 野菜処理能力を増強するため静岡ファクトリー第3棟竣工
- 2010年 「グリーン・グルメ」出店
- 2012年 岩田（上海）餐飲管理有限公司設立
「RF1」中国第1号店出店
- 2014年 香港Citysuperと業務提携により「RF1」出店
- 2017年 「RF1オンラインショップ」開設



第47回定時株主総会 決議ご通知

2019年7月25日開催の当社第47回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

- 第47期（2018年5月1日から2019年4月30日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - 第47期（2018年5月1日から2019年4月30日まで）計算書類報告の件
- 本件は、上記の内容及び監査結果を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件**
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当金は1株につき23円と決定いたしました。
- 第2号議案 定款一部変更の件**
本件は、原案どおり承認可決され、当社定款第6条の発行可能株式総数は、60,000,000株となりました。
- 第3号議案 取締役8名選任の件**
本件は、原案どおり承認可決され、取締役に岩田弘三、古塚孝志、細見俊宏、伊澤修、遠藤宏、中野勘治、門上武司の7氏が再選、松村はるみ氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、中野勘治、門上武司、松村はるみの3氏は社外取締役であります。
- 第4号議案 監査役2名選任の件**
本件は、原案どおり承認可決され、監査役に岡吾郎氏が再選、三戸一弥氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、三戸一弥氏は社外監査役であります。
- 以上

配当金のお支払いについて

第47期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中（2019年7月26日から2019年8月30日まで）に、お近くのゆうちょ銀行又は郵便局でお受け取りください。また、配当金の口座振込をご指定の方は、同封の「期末配当金計算書」及び「配当金振込先ご確認のご案内」によりご確認ください。

株式の状況

（2019年4月30日現在）

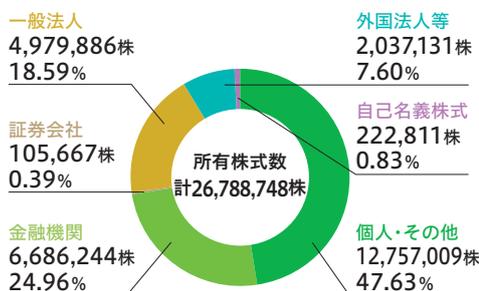
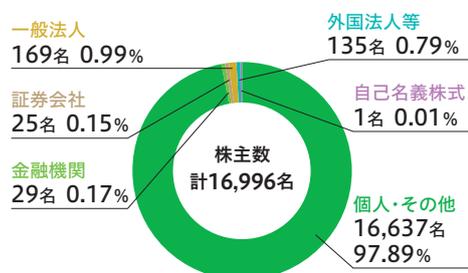
発行可能株式総数 40,000,000株
発行済株式の総数 26,788,748株
単元株式数 100株
株主数 16,996名

※2019年7月25日開催の第47回定時株主総会決議に基づき、発行可能株式総数が60,000,000株となりました。なお、発行済株式の総数の変更はありません。

▶ 大株主

株主名	持株数(株)
株式会社岩田	2,300,000
明治安田生命保険相互会社	1,312,600
ロック・フィールド取引先持株会	1,286,780
株式会社四国銀行	1,242,920
岩田弘三	784,200
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	657,300
ロック・フィールド社員持株会	558,594
三菱UFJリース株式会社	482,064
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	423,100
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	416,681

▶ 所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会 7月
剰余金の配当基準日 期末 4月30日 中間 10月31日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話(通話料無料)0120-094-777
上場証券取引所 東京証券取引所
公告方法 電子公告 (<http://www.rockfield.co.jp/>) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

住所、氏名のご変更、単元未満株式の買取請求・買増請求等のお手続に関するお問い合わせ、お手続に必要な書類のご請求等はお取引の証券会社までご連絡ください。また、特別口座で管理されている株式に関するお問い合わせ等は上記株主名簿管理人（特別口座管理機関を兼任しております）連絡先までご連絡ください。

会社情報

（2019年4月30日現在）

社 名 株式会社ロック・フィールド
設 立 1972年6月8日
神 戸 〒658-0024
ヘッドオフィス 神戸市東灘区魚崎浜町15-2

TEL.078-435-2800(代表)
FAX.078-435-2805

資 本 金 55億44百万円
従 業 員 数 1,585名
子 会 社 岩田（上海）餐飲管理有限公司
株式会社コウバデリカテッセン